

社会的なものの見方や考え方を育てる学習の指導方法の研究

- 第5学年社会科「森林資源と国土の保全」の実践を通して -

笠岡市立金浦小学校 教諭

高橋 伸 明

研究の概要

子どもが社会的事象に出会ったときの見方や考え方を、社会的なものの見方や考え方に高めていくためには、「内容的な見方や考え方」と「方法的な見方や考え方」の両面を育てながら、学習活動を展開していく必要があると考えた。本研究では、単元構成や子どもの体験的な活動などの工夫に重点をおいて、森林保全に携わる人々の営みもつ社会的意味について考える場の設定を工夫した。また、調べ方やまとめ方などの方法に見通しをもちながら学習問題の追究ができるようにするために、子どもの学び方を支える手だてを工夫した。それらを通して、子どもの社会的なものの見方や考え方を育てる学習の指導の在り方を明らかにすることができた。

キーワード 社会的なものの見方や考え方，単元構成，体験的な活動，学び方，情報交換

はじめに

社会科の学習では、子どもが社会の変容に対応しながら、主体的、創造的に生きていく力を獲得していくために、社会的なものの見方や考え方を育てることが重要である。ところが日々の実践を振り返ってみると、見方や考え方を広げたり深めたりしながら、社会的事象にかかわっていくことが不得意な子どもも多い。

そこで、第5学年社会科「森林資源と国土の保全」の実践を通して、子どもが様々な社会的事象と出会いながら、社会的なものの見方や考え方を身に付けていく問題解決的な学習の指導方法について研究をしようと考え、本主題を設定した。

研究の目的

第5学年社会科「森林資源と国土の保全」の実践を通して、子どもが社会的なものの見方や考え方を身に付けていく問題解決的な学習の効果的な指導の在り方を探る。

研究の内容

1 研究主題のとらえ方

本研究における「社会的なものの見方や考え方」とは、社会的事象についての情報や知識を関連付けて、結論を導き出すための判断の仕方である。判断するために必要な情報や知識は、社会的事象の内容を表すものだけではない。事象を追究したり考察したりする方法も、必要な情報や知識である。つまり、社会的なものの見方や考え方は、「内容的な見方や考え方」と「方法的な見方や考え方」の両面を共に

働かせながら高められていくものと考えている。ここで言う「内容的な見方や考え方」とは、事象の社会的意味をとらえることができるような見方や考え方であり、「方法的な見方や考え方」とは、調べ方やまとめ方などの学び方に関する見方や考え方である。特に後者は、将来にわたって生きて働く力へと結び付く、大切な見方や考え方にとらえている。

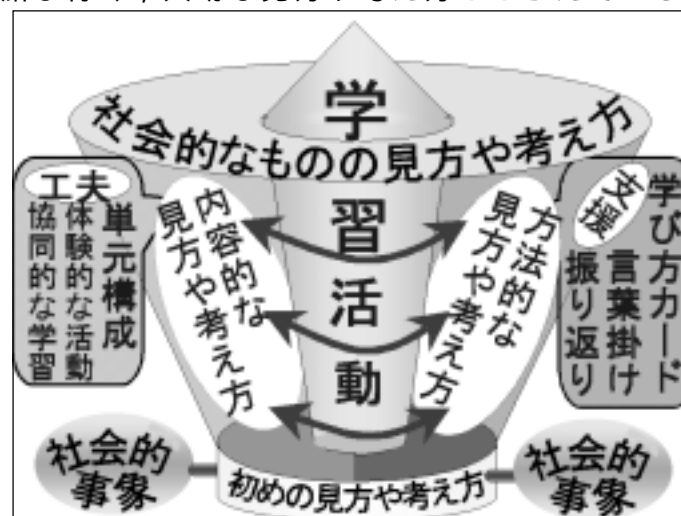


図1 研究主題の概念図

このような見方や考え方を高めるためには、次のような支援が効果的であると考えた。

(1) 「内容的な見方や考え方」を高める支援

一見相反するような複数の社会的事象を取り上げ、それらの相違点と共通点を考えることができるような単元を構成すれば、事象に対する「内容的な見方や考え方」を高めることができる。

体験的な活動を行えば、自分とのかかわりの中で社会的事象をとらえることができる。また、協同的な学習を取り入れれば、社会的事象にかかわ

る人々や友達の多様な見方や考え方に触れることができる。それらを通して、事象に対する「内容的な見方や考え方」を高めることができる。

(2) 「方法的な見方や考え方」を高める支援

多様な追究活動に慣れていない子どもは、調べ方、まとめ方、追究の手順などを例示した学び方カードを活用すれば、より適切な手段で見通しをもって学習を進めることができ、「方法的な見方や考え方」を高めることができる。

資料を活用して調べる見通しがもてない子どもや、読み取った事実を自分の考えに生かすことができている子どもには、その子ども自身の視点

を明確にしたり少し広げたりする言葉掛けを行えば、学び方の問題点を明らかにすることができ、「方法的な見方や考え方」を高めることができる。

自らの学び方や友達の学び方について振り返る場を設定すれば、追究内容にふさわしい学び方を知ったり、次の学習へ生かしたりすることができ、「方法的な見方や考え方」を高めることができる。

2 授業の概要

(1) 対象 笠岡市立金浦小学校第5学年（A組27名，B組27名）

(2) 単元名 「森林資源と国土の保全」

(3) 単元の目標及び構成（12単位時間扱い）（表1）

表1 単元の目標及び構成

単元の目標		森林組合おわせの人々が、計画的に森林管理や植林を行いながらひのき材を生産していることや、白神山地世界遺産地域巡視員が、自然環境を守りたいという強い願いをもって保護活動をしていることなどを理解しながら、森林資源の保全がもつ社会的意味について考えることができる。（内容的な見方や考え方） いろいろな方法で情報収集をしたり資料活用や考察の仕方を工夫したりしながら学習を進めることによって、新たな学び方に気付いたり見通しをもって追究活動に取り組んだりすることができる。（方法的な見方や考え方）			
次時	学習活動	育てたい内容的な見方や考え方	育てたい方法的な見方や考え方	教師の支援と資料	見方や考え方の評価方法
一 学習問題をつかむ段階	1 (単)	・森林のよさや働きについて話し合う。 ・人間の健康・安全な生活の支え ・昔から木材は生活の支え		「国土における森林の割合」「森林のもつ役割」「木材のよさ」「木と人間の歴史」 ・資料の内容がとらえやすいように工夫したワークシートを活用する。	・発言 ・ワークシート
	2 (合)	・資料でとらえたことを確かめる。 ・森林の中の心地よさ ・豊富な木製品	・実際に森林の中へ入る。 ・身の回りの木製品を調べる。	・感じたことを表現しやすいように工夫したワークシートを活用し、四感マップを作成するように促す。	・ワークシート ・つばやき
	3	・日本の林業の現状や森林保全などについて話し合う。 ・日本の林業の不振 ・労働者の減少、高齢化 ・尾鷲の林業が昔から盛んな理由 <学習問題1> 日本の林業が振るわなくなってきたのに、森林組合おわせの人々は、どのようなことをして林業を成り立たせているのだろう。	・資料から分かることをまとめる。 ・資料から分かること同士を関連付ける。	「林業人口や林業収入の減少」「木材需要の変化」「輸入材・国産材の割合」 「尾鷲のひのき林の写真」「地図帳」「尾鷲林業の歴史」「尾鷲の気候」	・発言 ・ワークシート
	4 (単)	・白神山地が世界遺産地域に指定された理由 <学習問題2> 人の手を加えないで森林を守っている白神山地では、どんな人々が、何をしながら保護活動を行っているのだろう。	・資料から分かることをまとめる。 ・資料から分かること同士を関連付ける。	「白神山地ブナ林の写真」「地図帳」「世界遺産について」 ・資料の内容がとらえやすいように工夫したワークシートを活用する。 ・資料が十分に読み取れない子どもに対して、学び方カードを活用するように促したり、言葉掛けをして読み取るための支援を行ったりする。	
二 学習問題について追究する段階	1 (単)	・追究活動の見通しをもつ。 <学習問題1>に対する予想 ・木を育てている。 ・いろいろな所へ出荷している。 ・若い人が働いている。 <学習問題2>に対する予想 ・見回りをしている人がいる。 ・国や県の人が決まりを作っている。 ・国や県の人呼び掛けをしている。	・教科書や資料集で調べる。 ・他の林業地域の様子も調べる。 ・直接現地の人に電話やファクシミリを使って尋ねる。 ・白神山地に関する出版物を調べる。 ・国や県の関係機関に尋ねる。 ・活動をしている人に、直接電話やファクシミリを使って尋ねる。 ・まとめ方や発表の仕方を工夫する。	・各自、興味・関心のある学習問題を設定し、追究活動の見通しをもつように助言する。 ・調べ方・まとめ方の見通しをもちやすいように、学び方カードと組み合わせたワークシートを活用する。 ・関係機関の所在や連絡の取り方について、子どもの必要に応じて伝えたり相談に応じたりする。 ・ポスターセッションの際、聞く人に分かりやすい発表するために、準備する資料の内容や説明の仕方を工夫するように助言する。	・ワークシート ・発言
	2 3 4 (合)	・学習問題を追究する。 <学習問題1> ・組合の統合、経営の合理化 ・計画的で環境に配慮した森林管理 ・林業に携わっている人の努力 <学習問題2> ・巡視員の人たちの働き、強い願い ・県の行う様々な事業	・学び方カードを使う。 ・資料の読み取り方の手順に沿って調べる。 ・ポスターセッションの準備をしながら分かりやすいまとめ方を工夫する。 ・グループ内での話し合いをする。	・子どもの必要に応じて、資料を提供したり、情報が得られる機関などについて紹介したりする。 ・必要があれば、ファクシミリ送信状を活用するように促す。 ・子どもの学びに応じた支援を行う。 *資料や事実に基づいた追究ができていない子どもに対する学び方カード *事実同士を結び付けて考えられなかったり、どのように追究すればよいのか困惑したりしている子どもへの言葉掛け	・学び方カード ・ファクシミリ送信状 ・つばやき ・調べる方法の広がりや変容 ・調べた内容のまとめ方
	5 6 (合)	・情報交換を行う。 ・ポスターセッション ・相違点と共通点について話し合い <学習問題1側の情報に接した子ども> ・林業を営んでいる人たちの工夫、努力 ・自然環境に対する影響の考慮 <学習問題2側の情報に接した子ども> ・世界中の人々に森林資源の役割や保護の大切さを呼び掛けたいという願い ・林業と保護活動 相違点...「木を切る」「木を守る」 共通点...「森林資源を大切に、自然環境に優しく」という願い	・自分たち以外のグループのまとめ方や発表の仕方よさに接する。 ・自分の見方や考え方との相違点や共通点を意識しながら発表を聞く。 ・質問する。 ・自分の考えを説明する。 ・自分の考えをもつ。広げる。深める。	・ポスターセッションの進め方を説明する。また、学習が進めやすいように工夫したワークシートを活用する。 ・自分の見方や考え方との相違点と共通点を考えながら、発表を聞くように助言する。 ・説明の仕方が十分でないグループに加わり、発表者に質問をしたり補足説明を促したりするなど言葉掛けを行う。 ・相違点と共通点が明らかになるように構造的な板書を行い、話し合いを進める。 「尾鷲の人、白神の人の思い・願い」 ・子どもの学習技能を高める一助とするために、自他の学び方を振り返る場を作る。	・つばやき、発言 ・発表の仕方 ・ワークシート ・学び方振り返りカード
三 まとめ段階	1 2 (単)	・森林資源に対する考えをまとめる。 ・カード集め学習 ・自分たちができることについての話し合い ・森林資源の有効利用、保全の大切さ ・生活の振り返り ・森林資源の大切さの呼び掛け	・新たな見方や考え方ができる。 ・校内放送、掲示物や環境フェスティバルを利用した情報発信をする。	・カード集め学習の進め方を説明する。 ・違う学習問題を追究した子どもを同じグループに編成することによって、視点の多いまとめ方になるようにする。 ・より現実的な情報発信の手段を選ぶように、助言する。 ・カード集め学習のよさを確認し、もの見方や考え方を高める一助とするために、学び方を振り返る場を作る。	・つばやき ・カード集め学習によってできた作品 ・発言 ・学び方振り返りカード

学級単独と二学級合同の二つの授業形態を必要に応じて使い分けた。「次時」の欄に、学級単独の授業は「(単)」と、合同の授業は「(合)」と示している。

(4) 授業の実際

学習問題をつかむ段階

ア 「四感マップ」作り（第一次の第2時）

資料を基に森林のよさや働きについて話し合った後に、運動場と学校の近くの森へ行って「四感マップ」を作る活動を行った（図2）。子どもは、耳・目・手・鼻を使って実際に感じた様子の違いを表現していった。森の中の遮音性・湿度・地面などについて、運動場との違いを感じることができた。

イ 学習問題作り（第一次の第3時～第二次の第1時）

上記の体験的な活動や、資料の読み取りを基に、学習問題を作った。調べる見通しがもてない子どもでも学習計画を立てやすくするために、調べ方やまとめ方を例示した学び方カードを活用するようにした。

なお、ここでは三重県の尾鷲林業地域（以下、「尾鷲」と言う。）に関する資料と青森県・秋田県の白神山地世界遺産（以下、「白神」と言う。）に関する資料の両方を全員が読み取るようにし、そのうち、自分の興味・関心の高い方の内容について学習問題を作るようにした。

学習問題について追究する段階

学習問題別に、3～4人のグループを編成し、各グループで調べる方法やまとめる方法の見通しを立てた後に、追究活動に取り組んだ。

ア 調べる活動（第二次の第2～4時）

子どもが考えた調べ方のほとんどは、まず初めに教科書、資料集、図書室の本などを活用する方法であった。白神については、教師の自作資料が用意されていることを伝え、必要な子

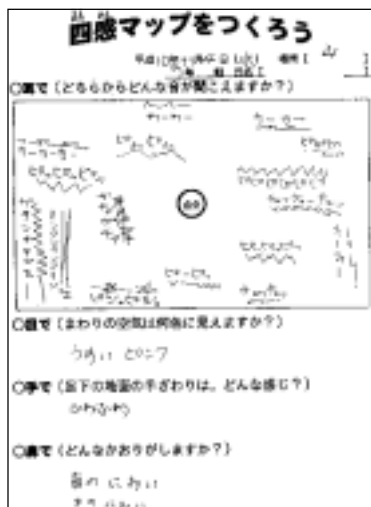


図2 「四感マップ」の記入例



図3 「ファクシミリ送信状」の記入例

もが求めに来れるようにした。

基礎的な資料を調べた後、新たに調べてみたいことができた子どもは、「についてもっと詳しく知りたいのですが、何かよい資料はありませんか。」「について調べようと思うのですが、どこへ尋ねたら教えてもらえますか。」などと教師に助言を求めてきた。この段階で更に詳しい書籍、パンフレット、ビデオなどを紹介したり、関係機関の電話やファクシミリの番号を知らせたりした。

また、資料を活用しても分からない事柄を調べようとしている子どもに対しては、学び方カード「ファクシミリ送信状」の活用を促した（図3）。多くの子どもが、職員室のファクシミリを活用し、これにより、携わる人の思いや願いなど、校内にある資料からは分からない事実を調べることができた。

イ 情報交換（第二次の第5・6時）

調べたことを情報交換する手段として、ポスターセッションを取り入れた（写真1）。ポスターセッションには、二つのよさがあると考えられる。より短時間に多くの発表の場をもつことができるという点と、少人数単位で発表するので、話す側も聞く側も自信をもって主体的に説明したり質問したりすることができるという点である。

子どもには、発表の仕方の見通しをもつ段階で、聞く人に分かりやすい発表をするために、資料の内容や説明の仕方を工夫するように助言した。実際に行われた発表は、次のような手法を組み合わせるものが多かった。

図を使った壁新聞（8）、クイズ（5）、紙芝居（4）、劇やペープサート（3）、模型や実物の提示（3）
（ ）内はグループ数

自分が発表する時間帯以外では、どこへ行って発表を聞いてもよいことにした。ただし、尾鷲（7グループ）と白神（9グループ）の発表のうち、それ



写真1 ポスターセッションの様子

それぞれ一つ以上は聞くように提案した。子どもはワークシートを基に、両者の相違点と共通点がどこにあるかを考えながら、自分の聞きたい場所へ移動して発表を聞くことができた。

発表終了後、全員で両者の相違点や共通点について話し合う場を設けた。また、授業の終末で「学び方振り返りカード」を活用し、単元を通じた学習方法の自己評価と相互評価を行った。

学習をまとめる段階（第三次の第1・2時）

自分たちの調べたことや情報交換したことをまとめるために、「カード集め学習（K）法を使った学習」を行った。グループ編成はあらかじめ教師が行い、各グループに尾鷲を調べた子どもと白神を調べた子どもの両方が入るように配慮した。テーマは「森林資源を守る」とした。様々な見方や考え方の記されたカードを整理、統合しながら、学習を進めることができた。

終了後、自分たちにできることについて話し合いを行った。初めのうちは、自然環境を守るために生活の仕方を改善する、というような内容ばかりが発言されたが、「こうして学習を終えた私たちだからこそできることは、何だろう。」と発問すると、「調べたことを他の人たちへ知らせよう」という方向へ意識が向き、校内放送や環境フェスティバルを活用した情報発信が提案された。

3 結果と考察

(1) 「内容的な見方や考え方」について

事後調査の「天然林を切り開いて道路を通す」ことに関する設問の回答で、「通せばよい」と回答した子どもは見られなくなり、「通してはいけない」と回答した子どもが約半数を占めた（図4）。また、「通した後に木を植えるとよい」と回答した子どもの中には、「植えた木が何十年も何百年も残っていると、天然林と同じようになると思うから。」という理由を挙げる者が多かった。「どちらとも言えない」と回答した子どもの中には、「地元の人はい

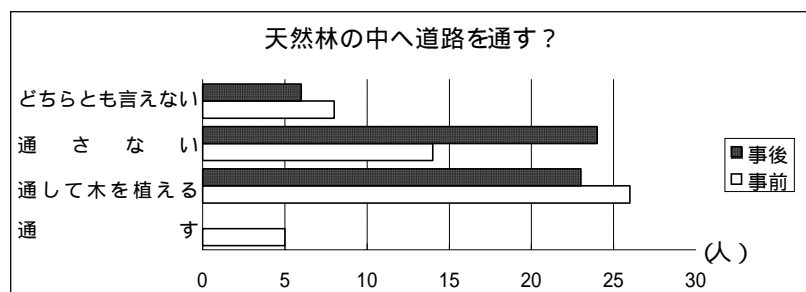


図4 事前・事後調査の比較（事前は10月，事後は12月に実施。）

になるけど、せっきくの天然林が壊されるのは残念。」という理由を挙げる者が多かった。これらは、本単元の学習によって子どもの「内容的な見方や考え方」が高まったことを示していると考えられる。

次に、単元構成の工夫と体験的な活動や協同的な学習の工夫それぞれの効果について考察する。

単元構成の工夫

林業に従事する人々と天然林の保護活動をする人々の働きを比較しながら、人々の願いや思いに迫ることができるように単元を構成した。

ポスターセッションでのワークシートの記述によると、林業に対して、「ただ木を切って木材にする仕事」という一面的な見方や考え方をしていた子どもが、「植林や間伐などをしながら森林を管理し、自然環境を守る」という側面にまで気付いていた（図5）。

また、子どもの発言によると、「林業」と「天然林の保護活動」の営みを比較しながら、携わる人の願いや思いについて話し合う活動では、二つの事象から見える相違点よりも、むしろ「自然を大切にしている」「森林が好きな人たちである」などの共通点に目を向けて、それぞれの営みのもつ社会的意味について判断をする子どもが多かった。森林の役割は、単に木材を供給することだけではない、という認識を深めることができたと考えられる。

これらは、「林業」に加えて「天然林の保護活動」に関する社会的事象を取り上げることによって、「内容的な見方や考え方」が高まったことを示していると考えられる。

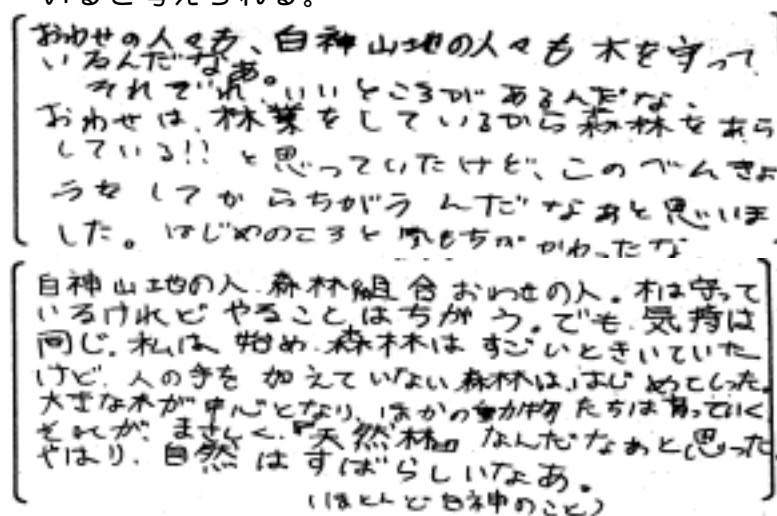


図5 ポスターセッション後の感想の例

体験的な活動や協同的な学習の工夫

体験的な活動や協同的な学習を取り入れ、多様な見方や考え方に触れる活動を試みた。

第一次で実施した「四感マップ」作りによって、

子どもは、学校の運動場と森林の中の様子の違いを顕著にとらえることができた。そして、ここで感じたことが、学習問題作りにも生かされた。例えばある子どもは、白神の概要を表した資料を読んで「学校の近くの森と比べて、白神山地の森の地面はどのくらいふかふかなのかな。」という疑問をもち、ビデオを見てその様子確かめた。そしてこのビデオ視聴を通して、森林のよさや巡視員の働きに目を向けていった。自分が直接感じたことと資料から読み取れる事実とを結び付けて、追究の見通しをもつことができたと考えられる。

また、図3の記入内容の豊かさから、林業や保護活動に携わる人々への電話、ファクシミリを活用したインタビュー活動が、子どもの調べる意欲を喚起していることが分かる。同様に、教科書や既製の資料からは読み取ることができない社会的な背景や人々の思いにまで気付くことができ、「内容的な見方や考え方」の高まりがうかがえる。

第三次で行った「カード集め学習」では、どのグループの作品も、林業と天然林の保護活動それぞれの事象が、「森林資源を守る」というキーワードの下に集約されていた。このことは、子どもがカードを整理したり統合したりする活動を通して、自分以外の多様な見方や考え方に触れ、森林資源の保全について、お互いの見方や考え方を広げながら判断することができたためと考えられる。

以上のことから、単元構成の工夫と体験的な活動や協同的な学習の工夫は、子どもの「内容的な見方や考え方」を高めるのに効果的であったと言える。

(2) 「方法的な見方や考え方」について

学び方カードを使った支援

子どもが調べる方法やまとめる方法を支えるために、多くの学び方カードを活用した。ここでは、追究活動の見通しをもつためのカード(図6)と、電話やファクシミリの使い方を知るためのカード(図7)それぞれの効果について考察する。

図6のカードには、調べる方法とまとめる方法を例示している。子どもは、自分の興味に基づいた、あるいは追究内容に合った学び方を選び、活動に生かした。また、うまく調べられない場合にはカードに立ち返り、別の有効な方法を見付け出すための手だてとした。例えば、ある子どもは、「林業不振の中で、尾鷲で工夫されていること」について教科書や資料集で調べた内容が不十分だ

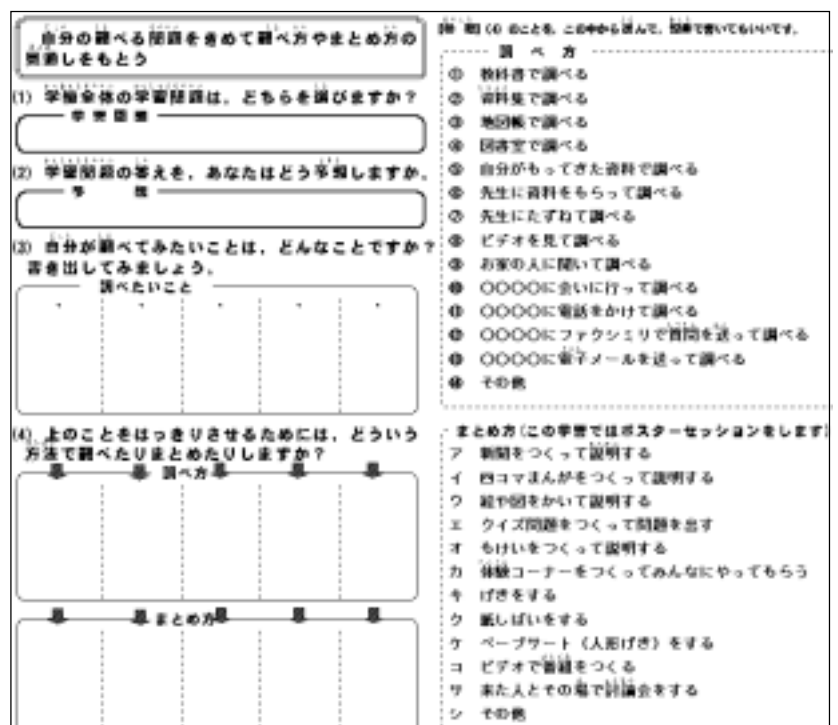


図6 追究活動の見通しをもつためのカード(一部)



図7 電話やファクシミリの使い方カード(一部)



写真2 電話でインタビューをしている様子

と判断し、質問内容を焦点化してファクシミリによる調査を行う、という追究過程をたどった。

図7のカードには、話をしたり尋ねたりする手順を例示している。慣れない子どもでも、質問の意図を伝え、必要な情報を収集することができた。そして、繰り返し行うことによって、こうした活動によって得られる情報の有用性に気付き、調べ方として積極的に活用できるようになった(写真2)。図8のAのように、今回の学習を通して新しく挑戦した調べ方として、ファクシミリの活用を回答した子どもは、54人中34人にも上っている。

また、「今までにしたことのない調べ方・まとめ方に挑戦し、うまくいったか。」の設問に対して、54人中49人の子どもが「できた」「まあまあできた」を選択し(図8のB)、その調べ方として学び方カードを参考にして実際に行った方法を挙げていた。これらは、カードの効果が子どもの「方法的な見方や考え方」の高まりに表れたものと考えられる。

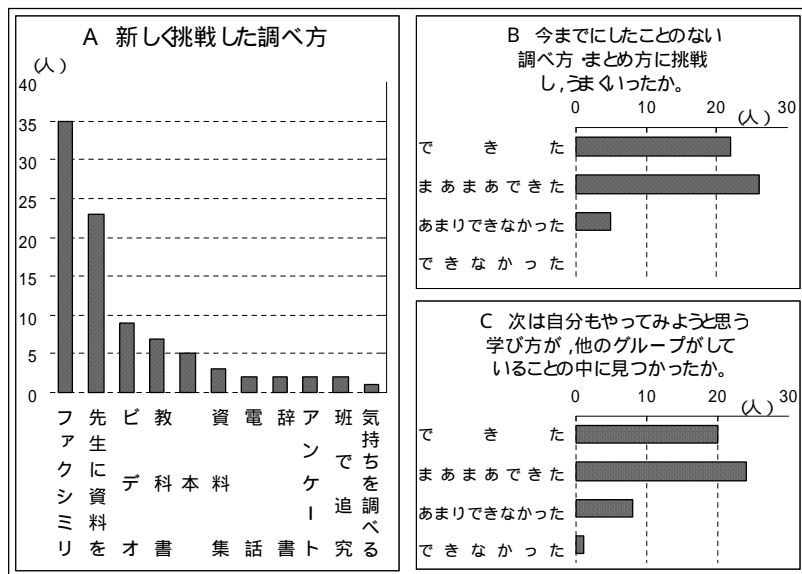


図8 「学び方振り返りカード」の集計結果 (54人中)の一部

言葉掛けによる支援

追究活動において、どんな資料を活用して、どのように調べたり考えを深めたりしていけばよいか、という見通しがもてない子どもも数名おり、言葉掛けを行った。その効果について考察する。

この子どもたちは、学習問題に対する認識が不十分なまま活動に取り掛かろうとしていた。そこで、「何を調べようとしているの。ああ、 について調べたいんだね。どんな資料を見付ければいいかな。」などと、その子どもの追究の視点を明確にする言葉掛けをして、調べ方について自分で考えることを促した。これにより子どもは、どんな資料を使えばよいかということに気づき、活動を始めることができた。

また、資料から分かる事実を書き並べるだけに終わっている子どもには、「つまりどういうことが言えるの。」「まとめるとどういうことになるの。」などと、事実同士を関連付けられるよう言葉掛けをした。こうすることによって、例えば、林業従事者の年齢構成を表す資料を調べていた子どもは、尾鷲と他の林業地とを比較して考えてみる方法に気づき、「尾鷲では、他の林業地に比べて若い人の数が多い。」という事実にとりつくことができた。

これらのことから、子ども自身の視点を明確にする言葉掛けや、事実同士を関連付けやすくする言葉掛けにより、「方法的な見方や考え方」が高められ

たとえられる。

学び方を振り返る場の設定

自他の学び方を振り返る場の設定の効果について考察する。

図8のCのように、「次は自分もやってみようと思う調べ方が、他のグループがしていることの中に見付かったか。」の設問に対しては、54人中45人の子どもが「できた」「まあまあできた」を選んだ。さらに、1月に次の単元で実施した学習の追跡調査(ノートへの記述の分析)によると、調べ方やまとめ方の見通しを立てる際に、「学び方振り返りカード」の記述内容を生かしている子どもが8割程度を占めた。

このことから、振り返る場の設定により、他の学び方を取り入れて自分の学び方を広げようとしたり、自分の学び方に自信を深め次の学習にも生かそうとしたりすることができたと考えられる。

以上のことから、学び方カードを使った支援と言葉掛けによる支援、学び方を振り返る場の設定は、「方法的な見方や考え方」を高めるのに効果的であったと言える。

おわりに

本研究では、第5学年の「森林資源と国土の保全」の実践を通して、子どもが様々な判断を繰り返しながら、社会的なものの見方や考え方を身に付けていく問題解決的な学習の指導方法を探ってきた。その結果、単元構成や体験的な活動、協同的な学習を工夫することによって「内容的な見方や考え方」を高めたり、学び方カードを使った支援や言葉掛けによる支援、学び方を振り返る場の設定によって、「方法的な見方や考え方」を高めたりすることができた。「内容的な見方や考え方」と「方法的な見方や考え方」とを共に高めながら学習活動を進めることによって、社会的なものの見方や考え方を育てることができたと考えられる。

今後は、子どもの学習状況や学習技能に応じた具体的な手だてを明らかにし、個に応じた「方法的な見方や考え方」の支援の在り方について、更に研究を深めていきたい。また、インターネットを活用した情報収集についても、新たな可能性を見いだしていきたい。

主な参考文献

- 1) 三宮真智子(1997): 認知心理学からの学習論-自己学習力を支えるメタ認知-, 鳴門教育大学研究紀要第12巻
- 2) 北俊夫(1997): 「社会科の授業」はどう変わらなければならないか, 明治図書